

筋疾患児・者のための 介助研修会

令和5年4月6日に大阪府立刀根山支援学校の多目的ホールで、大阪刀根山医療センターの理学療法士の方々を講師としてお招きし、介助研修会を行いました。今年度は、例年の5倍以上の申し込みで、校内と外部を合わせると60名以上の参加者となりました。外部は、25校から申し込みがあり、会場には地域の小学校、中学校、高等学校、また支援学校、市町村の教育委員会と多種多様な方々が参加されました。



① 15:30 講義形式で、筋疾患児・者の拘縮とその予防や動作介助に必要な知識とその方法、また筋疾患によって、拘縮が進行してからの身長測定法などを行いました。



② 15:50 参加された方々に車いすからベッドへの移乗体験をしていただきました。



③ 16:20 拘縮予防のリハビリテーションについて、手技を行う側とリハビリを受ける側を体験していただきました。



④ 16:40事 前に申し込みフォームでいただいていた質問を中心にお応えしました。



<研修会後のアンケートより抜粋>

- 移乗の際の留意点やストレッチの方法が特に役に立った。
- マッサージの方法が役に立った。具体的でよかった。
- 病気の内容、ストレッチのやり方、介助の方法、児童生徒への関わり方が知れてよかった。
- 質疑応答では、他の先生が質問されていた内容も気になっていたことが多かったので、参考になることが多かったです。
- 筋ジストロフィーの新生児を迎えるのは不安ですが、病気のことや関わり方が知れて少し不安が解消されました。年度初めのこの時期の開催は良いと思います。
- 知らない知識も多く、今年度生徒を受け入れることに不安があったが、軽減された。また、実際に体験をすることで分かることあった。

アンケート結果より、研修会全体を通して、参加者の満足度がとても高かったことがわかりました。しかし、現場ではより多くの筋疾患の児童生徒への教育について情報が求められているように感じました。今後、さらに情報発信力を強化していく必要があると考えております。